

送り盆恒例「田山盆踊り」の始まりを告げる

田山ぶっこみ太鼓



市無形民俗文化財に指定

市制施行後の新規指定は、11年ぶり2件目



市長から認定書の交付を受けた米川会長(中央)と事務局の田中義信さん(右)

指定の経緯

6年8月1日

田山地域振興協議会から指定の要望

6年8月16日

市文化財保護審議会委員による調査

7年1月31日

同審議会の答申

7年4月1日

市無形民俗文化財に指定

田山ぶっこみ太鼓保存会を保持団体に認定



大太鼓を用いた市内唯一の年中行事

市は4月1日、「田山ぶっこみ太鼓」を市無形民俗文化財に指定するとともに、田山ぶっこみ太鼓保存会(会長: 米川明彦^{あきひこ})を文化財の保持団体に認定しました。

田山ぶっこみ太鼓は、現在、市内で唯一行われている大太鼓を用いた年中行事で、毎年8月16日に行われる田山地区の送り盆行事「田山盆踊り」の際に、盆踊りに先立って披露される太鼓の行列です。

盆踊り当日は、田山本村周辺の集落の住民が、大太鼓を打ち鳴らしながら、各集落から勇壮な掛け声と共に手提げ提灯を上下させ、盆踊り会場の田山消防会館に向かいます。田山本村側でも太鼓を叩きながら行列を途中まで出迎える(迎え太鼓)と、一団となった行列は、より威勢を増し、会場に進みます。

現在では貴重なものとなったこの行事は、近代以前から伝承されてきたと考えられており、市文化財保護審議会において、後世に引き継ぐ価値が認められ、今回の指定となりました。

「田山ぶっこみ太鼓」は、地域の送り盆行事「田山盆踊り」が「始まる」「終わる」の合図にもなっている太鼓行列です。10以上の周辺集落からの太鼓行列が、大太鼓を打ち鳴らすとともに、ちょうちんを持ち掛け声を上げ、田山本村の盆踊り会場に向かいます。その後に行われる盆踊りは、お盆に合わせて帰郷した人なども含め、毎年200人ほどが集まり、とてもにぎわいます。今回、市の無形民俗文化財に指定していただき、責任の大きさを感しました。太鼓の継続には、皆さんの協力が必要ですが、地域の若者が外に出て行ってしまい、継承に危機感を感じています。今後、若者に太鼓を教えていかなければならないと考えています。

今年も
8月16日に
披露予定

田山ぶっこみ太鼓保存会
会長 米川 明彦さん



事務局 田中 義信さん

お話を聞きました